

識にはならなかったが、シンポジウムのテーマ選定などで、担当機関まかせでなく連絡会でもっと支援する必要があるとの認識になり、今後、横の連絡を強化していくことになった。気象庁と大学関係の会員がもっと相互交流すべきとの議論が多く出て、そのような行事の企画を連絡会で行い、それらの活動を支部結成へ向けての準備活動にしていくことが大筋で了承された。

3. 会員の新規加入等について

個人9名、団体4の入会を承認。個人29名、団体3の退会を報告。

4. 名誉会員の選任について

全理事に推薦を依頼していたが、13理事から16名の推薦があった。これについて常任理事会とし

て討議。「推薦の日安」についてはおおむね賛成されたが、一部に必ずしも適切でない表現があるとの指摘があり、討議した結果、この部分を削除することにする。

個々の被推薦者につき推薦のあった趣旨を検討したところ、今回は、一般の学会員にも知名度が高いと思われる4名を名誉会員候補者として次回総会に提案することにし、そのための全理事による賛否投票にかけることにする。より広い範囲の各普会員候補者の選任については、推薦方法を含めて、なるべく早い機会に理事会等で議論することとした。

5. 1995年度事業計画案、予算案について

ひきつづき、各担当から来年度計画に盛り込むべき企画を受け付けることとする。



第28回国際会議のための準備セミナー

—英語によるプレゼンテーションの実際—

国際会議で発表する予定のある方、英語によるプレゼンテーション能力の向上を図りたい方に最適なセミナー

1. 日 時：1995年6月24日(土)・25日(日)

2. 会 場：OVTA—幕張
海外職業訓練センター
千葉市美浜区ひび野1-1

3. 参加費：80,000円

4. 宿泊費：18,000円(2泊・食事付)

5. 定 員：18名

6. 参加申込みおよび詳細問い合わせ先

〒107 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル

社団法人 日本工学会

電話：03-3475-4621

FAX：03-3403-1738



1995年度日本生命財団研究助成応募要項

助成の概要

—助成対象研究（改正）

「人間活動と環境保全との調和に関する研究
—自然と人間の共生への新しい道を求めて—」
の趣旨に沿った研究のうち、「人間活動と自然環境との関係（人間と自然環境の共存）」関連分野で、かつ現在及び将来の重要課題、具体的なテーマ例示は別表。（自然科学，社会科学，人文科学を問いません。）

—助成金総額・助成期間

- 合計1億円程度
- 1995年10月1日から1996年9月30日までの1年間

—応募〆切

1995年5月19日（金）〔当日消印有効〕

—助成の決定

当財団選考委員会にて選考の上、9月上旬の理事会で決定

助成対象研究分野

（一部抜粋）

分 類			分 野 コード	
大 分 類	小 分 類	内 容・視 点		
水 問 題	陸水環境関連	汚染・汚濁発生源と経路 健康への影響 保全と対策	I	A
	海洋環境関連	汚染・汚濁発生源と拡散経路 海洋生物への影響 保全と対策	I	B
大 気 問 題	オゾン層関連	オゾン層破壊ガスとその発生及び作用機作 オゾン層破壊の生物に及ぼす影響 オゾン層破壊防止のための方策	II	A
	温暖化現象関連	地球温暖化現象の総合的解明と将来予測 地球温暖化の影響と対策（エネルギー問題）	II	B
	酸性雨関連	酸性雨影響地域の将来予測 生物影響の作用機作 酸性雨防止対策	II	C
	その他健康や環境に重大な 影響を及ぼす大気汚染	発生源 影 響 防 止 対 策	II	D

応募・お問い合わせ先（申請書の請求先）

〒541 大阪市中央区今橋3-1-7
日本生命今橋ビル4F
日本生命財団 研究助成部
TEL 06(204)4012 FAX 06(204)0120

予 告

来年度より現行の研究助成に加え、下記概要のとおり特別研究助成を実施する予定である。応募希望者はご準備下さい。

- ① 研究課題を2年単位で1課題を設定する
H. 8～9年度募集課題
「湖沼の環境改善」
- ② 学際的総合研究に助成する（個人研究不可）
- ③ 助成期間は2年間とする
- ④ 助成額は2,000万円（1,000万円×2年）とする
- ⑤ 助成件数は平年度1～2件とする
- ⑥ 応募時期、選考時期等は現行研究助成に同じ

月例会「第39回山の気象シンポジウム」のお知らせ

日 時 平成7年6月17日(土) 13時から
 場 所 専修大学付属高校梅田記念館
 (東京都杉並区和泉4-4-1)
 京王線代田橋駅下車北へ約1km
 講演希望の方は演題に200字以内のアブストラクト

をつけて4月末までに下記に郵送して下さい。

記

〒115 東京都北区赤羽西4-25-12
 中村 繁 気付 山の気象研究会



気候システム研究センター特別講演会のお知らせ

長い間、日本の気象学会のリーダーとして活躍された松野センター長の退官を記念して、以下の特別講演会を開催いたします。是非ご参加下さい。

CCSR—特別講演会— 松野センター長退官記念
 「気象力学の過去・現在・未来」

期 日：平成7年5月18日(木)
 9時30分～17時30分

場 所：東京大学安田講堂

講演者：A. Kasahara (NCAR)

赤道波ノーマルモードと数値予報

K. Miyakoda (GFDL)

El Nino and Monsoon forecast

S. Manabe (GFDL)

未定

M. Yanai (UCLA)

The past, present and future of
 tropical meteorology

A. Arakawa (UCLA)

The past, present and future of
 Numerical Modeling of the
 Atmosphere; a Personal view

廣田 勇(京大)

成層圏突然昇温研究の歴史と展望

山岬正紀(東大)

CISK と雲システムに関する研究

松野太郎(北大)

未定

尚、5月19日は、引続き東京大学先端技術研究センター講堂でワークショップを開催します。



1995年度学術大会および総会のお知らせ

会 期：1995年6月17日(土)～18日(日)	費 用：大会参加費	1,000円(学生 500円)
会 場：日本大学文理学部(世田谷区桜上水3-25-40) Tel 03-3329-1151	予稿集代	1,500円
	懇親会	5,000円
日 程：6月17日(土) 9時30分～ シンポジウム, 一般研究発表, 総会, 懇親会		
6月18日(日) 9時30分～17時 一般研究発表		

編集後記：阪神大震災に遭遇され被害を受けられた会員の方々には心からお見舞い申し上げます。1日も早い復興をお祈り致しております。秋季大会は大阪で開催の予定ですが、その折には皆様のお元気な姿に接することが出来るものと期待しております。

今回の未曾有の大災害を前にして、自然現象の奥深さと人間の理解の未熟さ、致らなさを思い知らされています。防災を業務とする官庁に勤務する者として、今回の大災害の経験を、今後の防災業務の企画立案・実施に生かせたらと考えております。

さて、河村前委員長から編集を引き継ぎ、1990年9月より約4年半にわたって編集委員長を勤めてまいりましたが、このたび都合により3月末で委員長を退任させていただくことになりました。この期間、印刷の電算写植化、表紙デザインの変更、「カラーページ」や「1990年代の気象学への手引」などの新企画の開始、1982年から11年間の主要記事の項目別および著者別索引の作成、IAMAP・IAHS'93特集号の発刊など、思い出に残る多くの仕事を行うことができました。これも

ひとえに編集委員各位の献身的な努力と会員の皆様の温かいご支援の賜と感謝しております。

委員長をお引き受けした当時、あれもしたいこれもしたいといろいろな企画を考えておりながら、手つかずのままに残ってしまったことも数多くあります。また、毎月の内容に関しましては校正ミスや編集上の不備で、著者や読者の皆様にご迷惑をおかけしたことも多々ありました。関係者の皆様にはこの場をお借りしてお詫び申し上げます。

4月からは関口理郎理事が編集委員長に就任されます。私も編集担当理事としていましばらくは編集のお手伝いをさせていただきますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後に、編集の雑務をしていただいた編集委員会書記の大井戸和子さん、編集活動に種々のご援助を頂いた学会事務局の伊藤、島津、松野の各氏と前事務局の木村氏にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

(藤谷 徳之助)